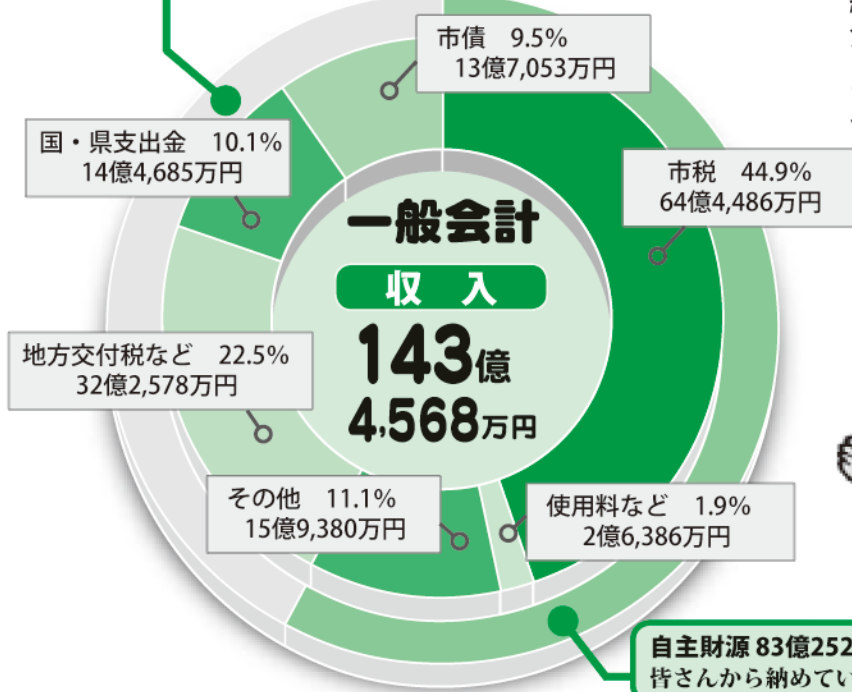


一般会計・特別会計決算総括表

会計名		収入	支出
一般会計		143億4,568万円	136億898万円
特別会計		87億4,608万円	83億4,272万円
内訳	国民健康保険	43億5,360万円	42億805万円
	老人保健	3億4,409万円	2億7,912万円
	後期高齢者医療	2億4,274万円	2億3,836万円
	介護保険	20億7,773万円	19億9,448万円
	公共下水道事業	14億1,513万円	13億2,787万円
	農業集落排水事業	2億6,104万円	2億4,458万円
	市営分譲住宅	5,175万円	5,026万円

依存財源 60億4,316万円 42.1%
国・県から交付されるお金や借入金など



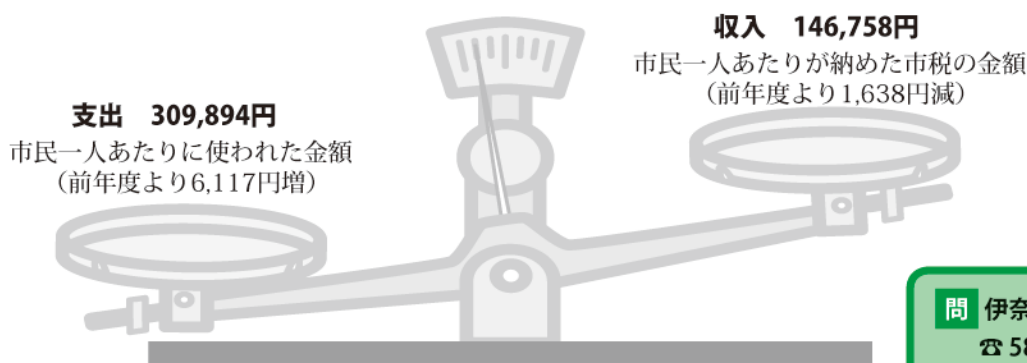
つくばみらい市の家計簿ともいえる平成20年度の一般・特別・企業会計決算がまとまりました。「活力に満ちた うるおいとやすらぎのまち」を推進するため、さまざまな事業を行いました。皆さんに納めていただいた市税をどのように活用したのかをグラフを用いて紹介します。



決算Q&A

支出内訳（市民一人あたり）		
総務費	35,210円	市役所管理などの費用
民生費	73,201円	高齢者福祉、子育て支援などの費用
衛生費	22,017円	健康診断、ごみ処理などの費用
土木費	53,414円	道路、公園、都市計画などの費用
消防費	18,331円	消防、防災などの費用
教育費	42,136円	学校、公民館、図書館などの費用
公債費	36,065円	借入金（市債）の返済金
その他	29,520円	議会運営、商工振興などの費用

Q1 市民一人あたりの市税収入と支出バランスはどのようになっているの？
A1 皆さんから納めていただいた市税と支出を比較すると次のようになります。



人口：43,915人
(平成21年3月末現在・住民基本台帳)

問 伊奈庁舎財政課
☎ 58-2111 (内線1232)

市の家計簿チェック

平成20年度決算の概要

その他 12億9,635万円 9.5%
(議会運営、商工振興などの費用)
・消費生活センターの開設

公債費 15億8,377万円 11.7%
(借入金(市債)の返済金)
(利子2億4,941万円含む)

教育費 18億5,042万円 13.6%
(学校、公民館、図書館などの費用)
・全小学校にAED(自動体外式除細動器)を配備
・豊小学校屋内運動場耐震補強および大規模改修工事
・板橋コミュニティセンター建設工事

総務費 15億4,626万円 11.4%
(市役所管理などの費用)
・日曜窓口の実施
・小・中学校全校にパソコンを整備

民生費 32億1,461万円 23.6%
(高齢者福祉、子育て支援などの費用)
・小張小学校に児童クラブを整備
・認定こども園(ふたばランド)開設

衛生費 9億6,688万円 7.1%
(健康診断、ごみ処理などの費用)
・新生児家庭の全戸訪問事業
・妊婦健康診査費の助成回数の拡大
・13歳、18歳を対象とした麻疹、風しん予防接種の実施

土木費 23億4,566万円 17.2%
(道路、公園などの費用)
・都市計画マスタープラン策定
・道路改良工事

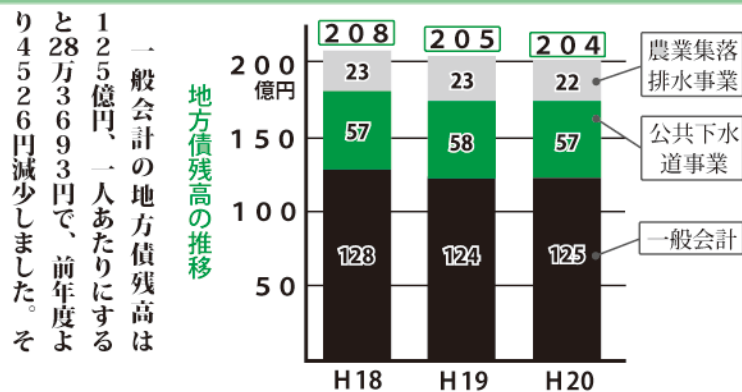
消防費 8億503万円 5.9%
(消防、防災などの費用)
・全国瞬時警報システム(通称「J-ALERT」ジェイアラート)接続工事
・耐震性貯水槽(5基)を設置

水道事業会計は、地方公営企業法の適用を受ける企業会計です。収益的収支(水道水をお届けするための必要経費と財源)と資本的収支(施設を整備拡充するために必要な経費と財源)の2つに分けています。資本的収支の不足分は、過年度分損益勘定留保資金などで補いました。

企業会計決算総括表

会計名	区 分	決算額
水道事業	収益的収支	収入 9億3,411万円
		支出 9億2,089万円
	資本的収支	収入 9億1,531万円
		支出 9億9,671万円

一般会計の収入金額から支出金額を差し引きすると黒字になり、差額分は翌年度以降に有効利用されます。



一般会計の地方債残高は125億円、一人あたりにすると28万3693円で、前年度より4526円減少しました。その

収入(市税)に比べて支出が多いようですが、その差額はどのようにしているの?
その差額は、国・県支出金や使用料などのほか、銀行等からの借入れで補っています。なお、一人あたりの借入等の金額は、3万1209円です。
一般会計と特別会計の地方債残高はどのくらいあるの?
市全体の地方債残高は約204億円あります。これを市民一人あたりの金額にすると、46万3624円です。左の地方債残高のグラフで一般会計を見てみましょう。

もそも地方債の借入は、都市基盤整備や施設の改修工事の費用を、将来利用する人にも負担していただくために行い、毎年返済しています。しかし、借入金も多くなりすぎると返済に追われ、他の事業を行う余裕がなくなります。
このような財政状況をどのように改善しているの?
平成21年度までを計画期間とする集中改革プランに基づき財政運営を行うことで、より一層の財政健全化を目指しています。
具体的な計画については、伊奈庁舎企画政策課で閲覧することができます。



小学校におけるパソコン教室(福岡小学校にて)

市の財政は大丈夫なの？

つくばみらい市の平成20年度決算における健全化判断比率および資金不足比率は、右表のとおりすべて「健全段階」となりました。

しかし、今後の社会変化に伴い、多くの財政需要が見込まれます。そのため、市では行財政改革、事務事業の見直しなどを進め、健全な財政運営に努めていきます。

市の財政状況を表す主な指標に、経常収支比率、公債費負担比率、財政力指数があります。

◎経常収支比率とは？

収入に対して人件費や扶助費など毎年必ず出ていくお金がどのくらいの割合になっているかを示す値です。

◎公債費負担比率とは？

一般財源総額のうち、公債費に使われた一般財源の割合です。この比率が高いほど借入金返済のための経費が多いことを表しています。

◎財政力指数とは？

地方公共団体の財政力を示す指標で、この数値が大きいほど財政力が強いと見ることができ、「1」以上の団体は、極めて財政力の強い団体と考えられています。

◎健全化判断比率とは？

実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率の4つの指標で、それぞれの比率に応じて「健全段階」「早期健全化段階」「財政再生段階」の3段階（将来負担比率は、財政再生段階なし）に区分されています。

◎資金不足比率とは？

公営企業ごとに算定し、「健全段階」「経営健全化段階」の2段階に区分されています。

これらの指標により、「早期健全化段階」「財政再生段階」「経営健全化段階」という区分になった地方公共団体は、健全化計画を策定し、国の関与のもと健全化に取り組むこととなり、財政悪化を早期に発見し、是正する機能をもっています。

つくばみらい市の平成20年度決算を審査したところ、審査に付された各会計の歳入、歳出決算並びに付属書類は、いずれも法令に規定された様式に従って調製されており、予算の執行は全般的におおむね適正であると認められました。

一般会計と特別会計の総額は歳入230億9100万円、歳出219億5100万円であり、前年度に比べ歳入で24億6000万円（マイナス9・4割）、歳出で21億3000万円（マイナス8・8割）、それぞれ減少しています。

一般会計と特別会計における実質収支は、10億6000万円の黒字でした。一般会計の実質収支は6億8000万円の黒字、特別会計の実質収支は3億8000万円の黒字でした。一般会計の性質別歳入の内訳をみると、自主財源は

今後の事業運営に当たっては、引き続き経営の根幹である水道料金の徴収に万全を期し経営基盤の強化に努めていただきます。

また、より信頼性の高い水道システムの確立を図るなど、安全で良質な水の安定供給に向けて、なお一層の努力をされるよう要望します。



財政健全化法について

財政健全化法とは、自治体の財政破たんを未然に防ぐため、国が財政状況をより詳しく把握し、悪化した団体に対して早期に健全化を促すための法律です。

市では、財政破たんを未然に防ぐため毎年度、新しい財政指標(健全化判断比率および資金不足比率)を算定し、市民の皆さんに公表することが義務付けられました。

1. 財政状況を表す主な指標

区分	経常収支比率 (%)			公債費負担比率 (%)			財政力指数 (%)		
	本市	全国平均	県平均	本市	全国平均	県平均	本市	全国平均	県平均
20	94.2	—	—	13.4	—	—	0.79	—	—
19	92.0	92.0	91.2	12.7	17.0	15.2	0.74	0.66	0.77
18	97.5	90.3	91.0	12.0	16.6	14.7	0.69	0.65	0.74

※平成20年度の全国・県平均について、現在集計中のため空欄。
※全国平均は、平成17年度が687市の平均、平成18年度が691市の平均で、総務省発行の「地方財政白書」から抜粋。
※県内平均は市平均(町村を除く)で茨城県発行の「市町村財政実態資料」から抜粋。

2. 健全化判断比率

指標の名称	平成20年度	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	—%	13.34%	20.00%
連結実質赤字比率	—%	18.34%	40.00%
実質公債費比率	15.3%	25.00%	35.00%
将来負担比率	122.9%	350.00%	

※実質赤字額、連結実質赤字額がない場合は、「- %」で表示。
※早期健全化基準：この比率に達すると「早期健全化段階」
※財政再生基準：この比率に達すると「財政再生段階」

3. 資金不足比率

特別会計の名称	平成20年度	経営健全化基準
水道事業	—%	20.0%
公共下水道事業	—%	20.0%
農業集落排水事業	—%	20.0%

※資金不足額がない場合は、「- %」で表示。
※経営健全化基準：この比率に達すると「経営健全化段階」

決算監査意見書要約

市監査委員 竹内 啓
市監査委員 中山 栄一

つくばみらい市の平成20年度決算を審査したところ、審査に付された各会計の歳入、歳出決算並びに付属書類は、いずれも法令に規定された様式に従って調製されており、予算の執行は全般的におおむね適正であると認められました。

一般会計と特別会計の総額は歳入230億9100万円、歳出219億5100万円であり、前年度に比べ歳入で24億6000万円（マイナス9・4割）、歳出で21億3000万円（マイナス8・8割）、それぞれ減少しています。

一般会計と特別会計における実質収支は、10億6000万円の黒字でした。一般会計の実質収支は6億8000万円の黒字、特別会計の実質収支は3億8000万円の黒字でした。一般会計の性質別歳入の内訳をみると、自主財源は

83億2000万円、歳入全体に占める割合は57・9割、依存財源は60億4300万円で、歳入全体に占める割合は42・1割でした。

次に、水道事業について、当年度における営業成績は営業利益で8200万円の黒字、営業外利益は、5600万円の赤字で差し引き2600万円の黒字となっています。